

FAQ - ライセンス消費の変更について

更新情報：Web トラフィックを監視してライセンスの必要性を判断する為の

[InterSystems Webservice License Tracker](#) ユーティリティがダウンロード出来るようになりました。

このFAQは皆様より追加で頂いた多くの質問についてもタイムリーに反映し、皆様により多くの情報をご提供できるよう、随時更新する予定です。

内容

非コアベース・ライセンスのライセンス消費方法の変更について	1
すでにアップグレードされたお客様へ	3
アップグレード前のお客様へ	3
メッセージのトラフィック量を理解する	4
コンカレント・ユーザとライセンス消費	5
ライセンス消費に関する追加事項.....	6

非コアベース・ライセンスのライセンス消費方法の変更

Q. どの様な変更が行われたのでしょうか？

A. InterSystems IRIS® data platform 2022.3 (或いは2023.1) のリリースから、同時ユーザ数をカウントするライセンス算出メカニズムが修正され、インバウンドのREST および SOAP のリクエストがカウントされるよう変更されました。

Q. この変更の理由は何ですか？

A. この変更は、同時ユーザ・ライセンスの消費における InterSystems Caché ® と InterSystems IRIS® データ・プラットフォーム間のライセンス・カウントの一貫性についてお客様よりご意見を頂いたためです。この変更により、インバウンドのREST リクエストと SOAP リクエストに対するライセンシングの消費方法が当社の利用規約と一致し、今後、すべての InterSystems 製品で一貫性が保たれます。

Q. この変更による影響は？

A. この変更により、REST または SOAP を使用する非コアベースのライセンスを使用している環境では、バージョン 2022.3 以降へのアップグレード後にライセンス使用率が高くなる可能性があります。バージョン2022.3以降にアップグレードしたお客様は、意図せずライセンスのユーザ制限を超えてしまい、トラフィックの一部がブロックされる可能性があります。

Q. 誰に影響がありますか？

A. 非コアベースのライセンスで InterSystems 製品を使用しているお客様が影響を受ける可能性があります。この文章の続きの情報を確認してください。

Q. 顧客が閾値を超えた場合はどうなりますか？

A. <LICENSE LIMIT EXCEEDED>エラーメッセージが表示され、レスポンスが遅くなったり、リクエストがブロックされたりする可能性があります。

Q. ライセンスにコンカレント・ユーザ・コンポーネントが含まれているかどうかは、どうすればわかりますか？

A. ライセンス・キーに同時使用ユーザ数の制限がない場合（ユーザ・フィールドに " 0 " がある場合）、アップグレード後のこの変更による影響はありません。

逆に、ライセンスキーのユーザ欄に " 0 " 以外の数字がある場合は影響を受ける可能性があります。

HealthShare® Health Connect、InterSystems Ensemble®、InterSystems IRIS 及び InterSystems IRIS® for Health からアップグレードするお客様は、ライセンスに同時ユーザ・コンポーネントがあるかどうかを確認してください。

Q. ライセンスの管理方法がわからない場合はどうすればよいですか？

A. 管理およびトラブルシューティングを含むライセンス管理に関する情報は、各製品の InterSystems ドキュメントに記載されています。InterSystems IRIS については [InterSystems IRIS ライセンスの管理](#) を参照してください。

すでにアップグレードされたお客様へ

Q. 閾値を超えた場合はどうすればよいですか？

A. カスタマーサポートセンターにご連絡ください。

ライセンスの使用量と実際の契約をどのように一致させるかを決定するまでの新しい一時的なライセンスキー（6ヶ月）を発行して問題が発生しないようにします。私たちの最優先事項は、この変更によるメッセージの遅延や問題が発生しないようにすることです。

Q. 基準値を超える可能性がある場合はどうすればよいですか？

A. カスタマーサポートセンターにご連絡ください。

お客様のメッセージトラフィック量を確認させていただく間、リスクを排除するために一時的なライセンスキー（6ヶ月）をご提供いたします。この変更によるメッセージの遅延や問題が発生しないことを最優先いたします。

新しいライセンスキーの発行後、お客様は6ヶ月間のトラフィック量を監視し、使用量を追跡する必要があります。ピーク時のトラフィック負荷を把握することで、ライセンス上限と実際の使用量を一致させるための最適な対応策を共同で決定することができます。詳細は以下をご覧ください。

このような状況にあるお客様は、エラーログをスキャンして<LICENSE LIMIT EXCEEDED>エラーメッセージを確認することもできます。

一時ライセンスキーを有効にする前に、メッセージ要求が拒否されていないかどうかを確認します。

アップグレード前のお客様へ

Q. アップグレードを計画するにあたり、何をすべきでしょうか？

A. 本番環境でアップグレードする前に、テスト環境でテストすることをお勧めします。

2022.3以降のリリースを使用し、実際のトラフィックのピークに近いボリュームで負荷テストを行い、<LICENSE LIMIT EXCEEDED>を示すエラーメッセージを確認してください。これが検出された場合は、営業担当アカウントに連絡して、積極的にエスカレーションを行ってください。

ご心配な点がある場合は、負荷テストを行っていない場合でも、営業担当アカウントにご連

絡いただき、積極的にエスカレーションを行ってください。この変更によるメッセージの遅延や問題が発生しないことを最優先いたします。

メッセージのトラフィック量を理解する

Q. この変更に伴い、アプリケーションの実行に必要なライセンス使用量をどのように決定できますか？

A. 例えば、API管理ソフトウェアやウェブトラフィック管理ソフトウェアで、ピーク時の使用量を長期的に監視することができます。

Q. メッセージのトラフィック量をモニターする方法がありません。どうすればよいでしょうか？

A. InterSystems は、ピーク時の Web トラフィック・ライセンス使用量を見積もるために設計された Web アプリケーション・トラフィック・ツールをリリースしました。お客様はこのツールを導入し、その出力（ライセンスサイジングレポートと呼ばれる）を毎月 InterSystems に送信することができます。監視期間中に測定された最も高いピークは、顧客と InterSystems が使用量を正しく理解し、新しいライセンス制限の透明性を提供し、アップグレード前にライセンスをプロビジョニングするのに役立ちます。

ユーティリティをダウンロードしてセットアップするには

1. WRC Direct の [InterSystems Support Tools](#) ページから Webservice License Tracker をダウンロードします。
2. “Webservice License Tracker-*.zip” ファイルを解凍します。
(* は製品バージョン文字列です、例えば IRIS-All-2024.1-All 等)
3. README.txt ファイルを開きその他の手順を確認します。
4. この[ビデオ](#) (英語)でライセンス付与の変更とユーティリティの概要を確認してください。

コンカレント・ユーザとライセンス消費

Q. InterSystemsは同時ユーザ数をどのようにカウントするのですか？

A. 「同時使用者」は以下のように定義されます：

- 各ライセンスユーザは、利用規約に記載されているように、最大12個の同時接続またはプロセスを持つことができます。
- 1台のデバイスから接続する場合、1ユーザとカウントされます。複数のデバイスから同時に接続した場合は、複数のユーザとしてカウントされます。
- 人に加え、（標準的なコンピュータ周辺機器以外の）各機器も1ユーザと数えます。例えば、各医療機器、科学機器、工場設備、インターフェイスは1ユーザとしてカウントされます。
 - 人やデバイスは、システムに直接接続しても間接的に接続しても、ユーザとしてカウントされます。システムへのアクセスを多重化するためにコネクション・プーリングやその他のハードウェアまたはソフトウェアが使用されている場合でも、各人またはデバイスは個々のユーザとしてカウントされます。

Q. どのように消費されるのですか？

A. リリース2022.3以降、私たちのソフトウェアでは、以下のように消費しています：

- ・ アクティブな人間のユーザまたは接続されたデバイス（一意のIPアドレス）は、ユーザとしてカウントされます。
- ・ 利用規約に記載されているように、1人のユーザが同時に接続できるのは12接続までです。
- ・ エンドポイント（一意のIPアドレス）の同時接続数が25を超えると、その時点で、各接続は別々のユーザとしてカウントされます。
- ・ デバイスの場合、WebサービスまたはRESTを使用したセッションもユーザセッションとしてカウントされます（バージョン2022.3以降）。

この消費は、WebサービスまたはRESTコールがデータベース・アクセスに使用される場合も、その他、統合目的で使用される場合も同様です。

Q. IRIS 2022.3以前のバージョンでは、どのようにこれを消費していましたか？

A. これまで、Caché は REST および Web サービスのライセンスを消費していました。Ensemble では、これら 2 つのテクノロジーのライセンスは消費されませんでした。IRIS 2022.3 より前のバージョンでは、Ensemble 製品の統合により REST および Web Services ではライセンスを消費されていませんでした。

InterSystems IRIS 2022.3 では、REST および Web サービスのライセンスが消費されるようになりました。

Q. Health Connectの顧客で、ライセンスはHLUに基づいています。影響を受ける可能性はありますか？

A. Health Connectをご利用のお客様は、HLUの数に関係なく、25の同時ユーザ数に制限がある可能性があります。これはユーザベースのライセンスであり、コアベースのライセンスではないため、影響を受ける可能性があります。

ライセンス消費に関する追加事項

Q. アプリケーションがRESTまたはSOAPリクエストを行っていて、ライセンス・リミットに達した場合、どのようなエラーコードが表示されますか？

A. SOAP リクエストはエラー 500 と共に
ERROR : #5915 Unable to allocate a license を受け取ります。
REST リクエストはエラー 503 と共に Service Unavailable を受け取ります。

Q. ウェブサービスを公開し、匿名リクエストを許可する場合はどうなりますか？

A. 匿名リクエストを許可しているパブリックWebサービスでは、すべての匿名リクエストが同じユーザからのものであるかのようにカウントされ、同時接続が多数発生するまでカウントされます。したがって、このようなサービスがライセンス制限を超える可能性が高くなります。

認証が必要なウェブサービスの場合であったとしても、リクエストの処理が複数のプロセスによって長時間実行される場合には、上限に達する危険性があります。

このようなケースは、トラフィックと業務負荷に依存するため、トラブルシューティングが難しくなります。ご心配な場合は、営業担当アカウントにお問い合わせください。

Q. CSP接続についてはどうですか？

A. CSP 接続は、ログインの特殊なケースです。%CSP.Session.Login() メソッドを使用することを強くお勧めします。このメソッドを使用しない場合、Web セッション ID がライセンス・ユーザ ID として使用され、各セッションでライセンス・ユニットが使用されます。多くの場合、これは不正確です。例えば、ユーザは複数のブラウザ・ウィンドウを同時に開くことができます。

アプリケーションによっては、ユーザが複数の異なる経路を介して接続できる場合があります。この場合、%CSP.Session.Login(username, password) メソッドを使用して、セッションに対して明示的なライセンス・ログインを実行できます。

CSP セッションが (ログアウトまたはタイムアウトによって) 終了し、且つ、ユーザが 1 ページしか閲覧していない場合、CSP は直ちにライセンスを解放しません。代わりに、CSP はそのユーザのライセンスを最大 10 分間の猶予期間にわたって使用します。

Q. 匿名のSOAPコールやRESTコールはどのように扱われますか？

A. 匿名SOAPおよびRESTリクエスト (インスタンス認証を必要としないリクエスト) は、最低 10秒間ライセンスユニットを使用します。ユーザを識別するSOAPまたはRESTリクエストは、“ユーザリクエスト”とみなされるため、ライセンスが必要です。

Q. InterSystems IRISはバックグラウンド・プロセスをどのようにカウントするのですか？

A. InterSystems IRISは、他のすべてのプロセスと同じ方法でバックグラウンド・プロセスをカウントします。これらはユーザの代理であり、そのユーザは同時実行ユーザ定義でカウントされます。

Q. タスクについてはどうですか？

A. 新規タスク]ページ ([システムオペレーション] > [タスクマネージャ] > [新規タスク]) を使用して作成された各タスク ([タスク・マネージャの使用](#) を参照ください)。ライセンス・ユーザ ID は、このユーザ・セクタとして実行タスクの値で指定された InterSystems IRIS ユーザ名とループバック IPアドレス、127.0.0.1に変換されます。これにより異なるホスト上で指定されたユーザとして実行されているタスクが、そのユーザのプロセスの最大制限に対して一緒にカウントされることが保証されます。

Q. 他に特別なケースはありますか？

A. ユーザ・スタートアップ・ルーチン (^%ZSTART および ^ZMIRROR) によって開始されるプロセスも特殊なケースです。ルーチンを実行するプロセスには親プロセスが無い為、ルーチンが呼び出される前に、ユーザ ID、ユーザ・スタートアップに対してログインが実行されます。ルーチンからジョブ・コマンドによって開始されるプロセスは、このユーザ ID を持ちます。

必要であれば、ルーチンから \$System.License.Login(UserId) を呼び出して、ユーザ ID を変更できます。この手順は、ルーチンが 25(規約では12) よりも少ない数のバックグラウンド・プロセスを起動し、1 つのライセンスしか使用しないことを意味します。

ライセンス条件に従って、これらのプロセスが別のライセンスを持つ必要がある場合（例えば、別のライセンスを必要とする実験装置を駆動する場合など）、\$System.License.Login(UserId) を呼び出して、適切なユーザ IDのライセンスを取得する必要があります。